



●第1回テーマ「パラリンピックはハイパフォーマンススポーツか？」

まもなく東京2020パラリンピック競技大会が開幕する。今回はパラリンピックの歴史や背景、そして今大会の日本代表選手団の編成や強化への取り組みについて3名の講師がそれぞれの立場から話すとともに、ハイパフォーマンススポーツとは何か、またハイパフォーマンスから見えるパラスポーツの可能性について議論をする。

●第1回講師紹介

○河合 純一（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会 委員長）

生まれつき左目の視力はなく、15歳で右目も失明し、全盲となる。パラリンピックには1992年バルセロナ大会から2012年ロンドン大会まで6大会に出場し、金メダル5つを含む全21個のメダルを獲得。2016年には日本人初となる国際パラリンピック委員会(IPC)の殿堂入りも果たす。早稲田大学大学院教育学研究科修了。2020年1月より現職。(独)日本スポーツ振興センターHPSCアドバイザー、スポーツ庁スポーツ審議会委員。東京2020パラリンピック競技大会では日本代表選手団団長を務める。

○久木留 毅（独立行政法人日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツセンター 国立スポーツ科学センター センター長）

クロスアポイント制度にて、専修大学より日本スポーツ振興センターに出向中。ハイパフォーマンススポーツにおける実践および研究に従事し、英国ラフバラ大学客員研究員、スポーツ庁参与、日本パラリンピック委員会(JPC)運営委員、ASPC(国際スポーツ強化拠点連合)アジア大陸理事、UWW(世界レスリング連合)テクニカル委員会委員・科学委員会委員、日本オリンピック委員会(JOC)情報戦略部門 部門長、日本レスリング協会ナショナルコーチ兼テクニカルディレクターなどを歴任。

○平松 竜司（東京大学大学院農学生命科学研究科・東京大学スポーツ先端科学連携研究機構 助教）

東京大学自転車部に所属時にパラサイクリング(障がい者の自転車競技)の日本代表チームスタッフとなり、パラスポーツに出会う。2008年北京パラリンピック日本選手団本部役員、東大総長賞受賞。その後、パラリンピック選手発掘事業なども手掛け、現在は日本パラ陸上競技連盟理事・強化副委員長として、パラ陸上競技の強化を担当している。(独)日本スポーツ振興センターHPSCアドバイザー、日本スポーツ協会競技者育成部会委員、日本自転車競技連盟理事なども務める。